

審査してみて感じた科研費申請書類

仙葉 隆 (理学部応用数学教室)

科研費獲得セミナー = 申請書書き方講座 = (2018/09/04/福岡大学 A 棟 AB02 教室)

講演内容と配布資料

● 講演内容

1. 私の審査分野 (研究分野) の特徴
2. 科研費審査の実際 (私の場合)
3. 審査員側からの申請者への要望 (私の場合)

● 配布資料

資料 1: 本講演スライドのコピー

資料 2: 基盤研究 (B・C)(応募区分「一般」)、若手研究の書面審査における評価基準等

資料 3: 平成 31 年度 (2019 年度) 若手研究研究計画書 (暫定版)

資料 4: 科研費ホームページ (日本学術振興会)

資料 5: 平成 31 年度科学研究助成事業 (科研費) の公募に係る変更等について

私の審査分野(研究分野)の特徴

- 専門分野： 数学
- 審査分野(研究方法)
- × 実験・ 実地調査 / 無し。
- × アンケート・ インタビュー / 無し。
 - 文献(論文雑誌) 調査・ 論文検討 / 有り。
 - 他の研究者の講演聴講・ 討論 / 有り。
 - パソコンを用いた簡単な数値計算 / 有り。
- 関連分野の申請書の大半は文字で埋まっている。
- 普段は数式を使って議論しているので、文字だけの説明は書く方は書きにくい、読む方は読みとるのに時間がかかる。

科研費審査の実際～審査の時期・状況・審査書類数～

- 1次審査(書面審査)

採点・申請書の長所と短所についてのコメント。

† 資料 2, 4 参照。

- 審査依頼: 11月頃。締め切り: 1月中旬。

大学の業務(講義、研究指導、会議、模擬講義)、学会出席や発表、学会委員会の仕事、論文査読。<業務満載>.

- 審査作業: 12月末から1月上旬(年末年始)

忘年会欠席。正月休み返上。

科研費審査の実際～審査作業(1)～

- 審査書類数：100件から120件程度(私の場合)
1件あたり、A4版十数ページ。
- 文章で埋めるページは6ページ。
- † 資料3(p.2～7)参照。
 - ・ 9割程度は活字で埋まっている。(非実験系の特色か?)
- 審査できない書類：利害関係がある申請者の書類
 - ・ 審査委員は申請者と同じ研究分野だが、競争関係・共同関係になるほど近くはない。
 - ・ あなたの分野のエキスパートではない。
- あなたと同じ「小区分」に入る研究者に通じる言葉・価値観以外は説明して欲しい。

科研費審査の実際～審査作業(2)～

- 審査時間：1 件あたり 30 分から 40 分。
 - ・ A4 版4 ページの文章
 - + 各申請書の評価 [十数項目の採点の後、総合的な評価]
 - + 申請書へのコメント (2 次審査資料)
 - † 資料 2(p.2) [私の場合は上記記載の通り]
 - ・ $([100\sim 120 \text{ 件}] \times [30\sim 40 \text{ 分}]) / (10 \text{ 時間}) = 6\sim 7 \text{ 日}$ 。
 - ・ 最終的に全体 [100 件から 120 件] の評価の調整
 - † 資料 2(p.3)
- 時間に余裕がない。読みやすい申請書希望。
 - … 審査委員にとって読みやすい申請書とは …

審査員側から要望 (私の場合)～読みやすい申請書 (1)～

… 審査委員にとって読みやすい申請書とは…

- 「基盤C・若手研究」の場合。
- 記載内容は申請書にある指示通りに書いて欲しい。
† 資料3(p.2)参照。
- 「研究目的、研究方法など」の欄
 - (1) 学術的「問い」、
 - (2) 目的・独創性・創造性、
 - (3) 明らかにする事柄。
- (1), (2), (3) ごとに書く。
できれば順番通り番号を付して書く。
- 概要 (10行程度) にこれらをまとめて書く。

審査員側から要望 (私の場合)～読みやすい申請書 (2)～

- 「本研究の着想に至った経緯など」の欄 (資料 3(p.5))
 - (1) 本研究の着想に至った経緯と準備状況。
 - (2) 関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ。
- 「応募者の研究遂行能力…」の欄 (資料 3(p.6))
 - (1) これまでの研究活動。
 - (2) 研究環境。
- (1), (2) ごとに書く。
できれば順番通り 番号を付して書く。

審査員側から要望(私の場合)～評価しやすい申請書(1)～

- 評定の要素・観点(資料2(p.2))を踏まえながら具体的な文献・事例をあげて記載。
 - 「小区分」共通の用語・見解以外は簡潔に説明する。
 - 「研究目的、研究方法など」の欄
- (1) 学術的「問い」(評定要素(1),(4))
- ・ 関連分野の状況を説明しながら本研究の「問い」の独自性・重要性・波及効果を簡潔に記載する。
- (2) 目的・独自性・創造性(評定要素(1),(2),(4))
- ・ 関連分野の他の研究を簡潔に説明した後それとの違いを述べることで、独自性・重要性・波及効果の説明をする。

審査員側から要望(私の場合)～評価しやすい申請書(2)～

- 評定の要素・観点(資料2(p.2))を踏まえながら具体的な文献・事例をあげて記載。
- 「小区分」共通の用語・見解以外は簡潔に説明する。
- 「研究目的、研究方法など」の欄

(3) 明らかにする事柄(評定要素(1),(3),(4))

- ・ 解明する事柄を明確に簡潔に記載し、関連分野の他の研究の方向と方法との違いを説明することで独自性・重要性を説明する。
- ・ 経費の使用法、既存の施設、今までの業績を記載しながら計画の妥当性・遂行可能性を説明する。

審査員側から要望(私の場合)～評価しやすい申請書(3)～

- 「本研究の着想に至った経緯など」の欄
 - (1) 本研究に至った経緯と準備状況(評定要素(1),(2),(3))
 - ・ 次の欄に関連する自身の研究業績を記載しそれを参照しながら独自性・重要性・妥当性・研究遂行可能性を説明する。
 - (2) 国内外の動向と本研究の位置づけ(評定要素(1),(4))
 - ・ 関連する国内外の研究動向と申請書の研究と違いを記載することで独自性・重要性を説明する。
 - ・ 関連する自身の研究を次の欄に記載しそれを参照しながらする。

審査員側から要望 (私の場合)～ 評価しやすい申請書 (4)～

- 「応募者の研究遂行能力…」の欄

(1) これまでの研究活動 (評定要素 (1),(3))

- ・ これまでのご自身の研究活動からの変更部分を書く。
- ・ これまでの研究経験が本研究に関連しており準備ができていることを書く。

(2) 研究環境 (評定要素 (1)(3))

- ・ 関連する自身の研究成果を参照しながら記載する。
- ・ 申請理由と経費が必要となった理由を記載する。

● 研究業績のデータベースへの記載

† 資料5参照。

- ・ 申請する研究の説明、実行可能性の説明のために積極的に記載する。
- ・ 本年度の申請から、researchmap, KAKEN, e-Rad と連携する。
- ・ e-Rad に自身の研究成果を記載することも心掛ける。
- 研究業績が無いと実行可能性は評価しづらい。
- 今年度公募より、「応募者の研究遂行能力及び研究環境」の欄に名称変更する。

まとめ

- 「申請区分」で共通する事柄以外は簡潔に説明を加える。
- 申請書の指示や評定要素に沿って記載する。
- 一般的な研究動向との違いを文献等を参照しながら具体的に・簡潔に記載する。
- 自身の研究業績を記載して研究の遂行可能性を説明する。
- 研究室の状況も含めて研究の準備状況や経費が必要となる事柄を記載する。
- 上記のように完璧に書くのは私にとっても非常に難しい。
- 本日の説明をどれだけ取り入れてかけるかという努力目標と理解して欲しい。